実践レポート

特別支援教育における『個別の指導計画』等の文書作成に関するシステム作りについて
-特別支援教育 実態把握シート（アンケートフォーム）の活用-

三木町立白山小学校
教諭　　山本　泰司

１　はじめに

小学校・中学校・高等学校の学習指導要領では、特別支援学級や通級による指導において、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を作成することが義務付けられている。作成に当たっては、児童の実態把握を丁寧に行うために保護者から情報を収集する必要がある。情報収集の際には、一人一人の児童について、保護者と一定時間面談することがほとんどである。しかし、令和２年２月以降、コロナ禍の影響で、直接保護者と長時間の面談が実施しにくい状況があった。本校でも、特別支援教育を行っていく上で対象の児童についての実態を詳しく把握をするために保護者と連携をとる必要があったが、対面形式の面談以外でどのように情報を集めたらよいかと、その方法を模索していた。

コロナ禍で長時間の面談が実施しにくい状況があったため、実態把握のツールとして Web アンケートを活用したシステムを開発・運用することにした。さらに Web アンケート『特別支援教育実態把握シート（Microsoft Forms)』(※以下『実態シート』）で集約された情報と、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」作成を連動させて一連の業務をシステム化して保護者と情報共有することを試みることにした。

２　実践の内容・方法

（１）特別支援教育実態把握シート（R4:Microsoft Forms、R5:GoogleForms）の開発

『実態シート』の下位質問項目は、香川県教育委員会が公開している「個別の指導計画」の例を参考にして、保護者・子どもの願い、学習面、生活・行動面といったものから、指導の重点項目までを項立てた。質問の内容や、問いの文章を整えていく際には、令和２年度特別支援教育整備体制事業で、指導者として派遣された鎌田昌代先生から「回答する保護者の気持ちに配慮されたものでなければならない」との助言をいただき整えることができた。

『実態シート』の具体的な質問と回答例（一部抜粋）は図２のとおりである。

図１　Web アンケート（トップ画面）

（２）『実態シート』の実施

実施に際しては、担任が４月の参観や保護者面談

の際に、『実態シート』の趣旨と、回答方法について簡単に説明し、回答期限はおよそ１か月以内とお伝えして実施した。保護者は、時間のある時に自身が使用しているスマートフォンなどで回答した。

回答にかかった時間は、およそ２０～３０分で、保護者にとっては多少長く負担に感じる時間ではあったが、どの保護者も丁寧に詳しくお子さんについての情報を入力して回答していただいた。また、回答後に保護者から寄せられた意見としては、「子どもの将来について中学校や高等学校段階のことも視野に入れていかなければならない意識を持つことができた」、「日ごろ顔合わせして伝達できていなかった食事などの配慮事項について早めに連絡することができてよかった」などという意見をいただくことができた。

質問	A児	B児	C児	D児
お子さんの願い（例）友達と一緒に楽しみたい。【IEP1-1】	友達と仲良くしたい。	楽しい学校生活をおくりたい	友達と楽しく過ごしたい	楽しく過ごしたい
保護者の願い（例）学年相応の学力を身につけてほしい。【IEP1-2】	学年相応の学力を身につけてほしい。	自分に自信をもって何事にもチャレンジしてほしい	落ち着いて、考える力を身につけてほしい	一斉でする授業についていけるようになってほしい
お子さんの将来の夢【IEP1-3】	家庭科教師かYouTuber。	サッカー選手	漫画家	電車の運転手
課題への取り組みについて【IEP2-1】	年齢相応に取り組むことが難しいことがある;	年齢相応に取り組むことが難しいことがある;	年齢相応に取り組める方だ;	年齢相応に取り組める方だ;
教科書・教材について【IEP2-3】	学年相応の教科書を使って学習してほしい	本人の理解に合わせて内容を決めて指導してもよい	学年相応の教科書を使って学習してほしい	学年相応の教科書を使って学習してほしい
本人の困っていること （例）集中して学習に取り組むことができない。など【IEP2-4】	集中して学習に取り組むことができない。1人では、集中力に欠ける場合がある。	1個わからないと全部わからない(わかるところもあるのに)って気持ちになってなかなか前にすすめない	集中力が続かない。気分にムラがある。	授業、勉強が退屈で嫌→ここからのストレスで聴覚過敏、頻尿
学習面でお子さんの得意なこと【IEP2-5】	漢字。	得意なところ……？	算数の計算	制作、せいかつの科目
学習面でお子さんの苦手なこと【IEP2-6】	理科。	今は時計の問題。漢字、計算など…	理科や社会などで、なぜそうなるかなど理由を聞かれた時、自分で考えをまとめるのが苦手。	算数、国語
食事について【IEP3-2】	箸で食べる;	箸で食べる;偏食あり;かなり遅い;	箸で食べる;	箸で食べる;偏食あり;

図２　質問と回答例（一部抜粋）

（３）『個別の指導計画』『個別の教育支援計画』等の作成・配付

『実態シート』への回答が得られた児童については、寄せられた情報をもとに順次担任が『個別の指導計画』『個別の教育支援計画』等の作成を進めた。作成にあたっては、『実態シート』の情報を転記する形式で作成が進む白山小学校（Excel）版の『個別の指導計画』『個別の教育支援計画』を使用し、作成する担任の業務負担を軽減する仕組みの整備を同時に進めた。担任としては、年度初めの早い段階で児童についての実態を詳しく把握することで、授業計画の立案や、指導の手立てにつなげることができ、１年間を見通した方向性や見当をつけて、指導に当たることができるようになった。また、『実態シート』の情報

図３　個別の指導計画

を転記する形式で作成が進むため、従来に比して短時間で作成が可能となった。

そして、一定期間指導した後、学期末に保護者懇談会をする際には、作成した『個別の指導計画』『個別の教育支援計画』『自立活動シート』について補足説明を加えて保護者に配付し、保護者に学校での指導内容や経過についての情報を保管していただき、関係機関との情報交換の際に役立ててもらうようにした。

図４　個別の教育支援計画

（４）『かけはし』の作成の推進

『かけはし』は、子どもの成長に従って保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、専門学校、そして就労にいたる各段階において記入し、子どもへの指導・支援を円滑に行い、また移行、継続していくことを目的としている。作成に当たっては、教育、医療、福祉、保健、労働等の各関係諸機関の担当者が、会議を開き、共通理解のもとに作成している。このファイルの作成は、子どもの「支援を要する内容」や「継続的支援によって変容した内容」、また、どのような機関と連携を図り、どのような支援者と関わってきたか等、後々の支援者にその情報を引き継ぐこととなり、一貫した指導・支援を実現するためにとても有効なツールになるのである。

長期的な展望に立って、子どもを支援していく際に、子どもの成長、指導の経過に関する情報を保護者が集約していく『かけはし』の意義は大きいと感じている。本校においても、一連の情報を文書にして保護者に配付し、『かけはし』にファイルしてもらうようにしている。

図５　「かけはし」表紙

３　実践の成果

保護者と情報を共有し、『実態シート』から得られた詳細な情報をもとに『個別の指導計画』『個別の教育支援計画』等の作成を進めることができた。

今年度初めて特別支援学級を担任した教員にとっても、情報収集の枠組みが整っていたことにより、見通しをもって必要文書の作成をすすめることができたようで文書作成の負担の軽減につながったようだった。

図６　システム導入後の効果【白山小学校】

また、保護者の側も、新年度担任が変わった際に児童の実態について学校側に知らせたい情報がある場合において、年度初めのあわただしい時期に直接担任と面談の時間を調整する必要がなく、正確に情報伝達することができて助かったとの声もあった。

４　普及させたい取組と期待される効果

令和４年度の特別支援教育エリアサポート事業で、本校の実践例を報告させていただく機会があった。そこで、指導主事や各学校の専任特別支援教育コーディネーターの先生等から、本校のシステムに対して好意的な評価をいただき、令和５年度から三木町統一の様式として整備していくことをご提案いただいた。

今後は、町内の小中学校で検討を重ねて、より一層内容を充実させていくとともに、保護者と即時的に正確に情報共有を進めるために、保護者指定のメールアドレス宛に回答データの控えを返信する仕組みを追加して、保護者の手元に情報の記録が即時的に集積していくようにした。

図７　三木町内での活用（イメージ図）

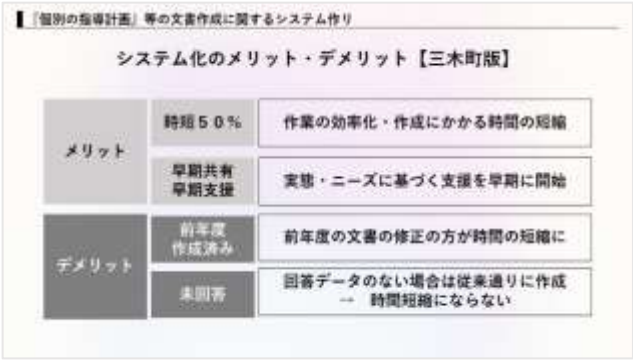

図８　システム化のメリット・デメリット

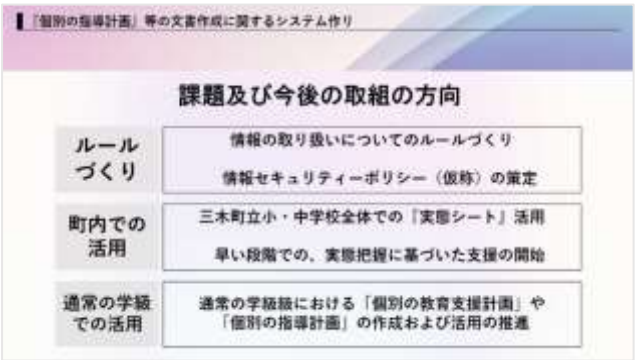

図９　課題及び今後の取り組み（要旨）

５　課題及び今後の取組の方向

令和５年度は、三木町立小・中学校全体で『実態シート』を活用している。本校においては、令和４年度末に『R5実態シート』への協力を保護者に依頼した。４月上旬に回答された児童については、その時点ですでに結果が集約できており、新年度新たに担任となった教員が、早い段階で児童の実態について情報を確認することができ、個別の配慮を検討して支援にあたることができた。

今後は、町内の各学校が保護者から寄せられた個人情報を扱うことになるため、情報の取り扱いについてさらに議論を進め、寄せられた情報を有効に活用して、特別支援教育がさらに発展していくよう、指導の充実を目指していきたい。